

登録コード	A3591307	開講年度	2026				
授業科目	プレゼンテーション演習				担当教員	筒井 歩	
英文授業名	Presentation						
単位数	1	講義期間	後期（随時）	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	3年生（研究室配属後の学生対象）
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 0 2 2 Aカリ，2 0 2 1 Aカリ，2 0 2 0 Aカリ，2 0 1 9 Aカリ						
	【2022年度以前加付対象】専門的な知識や研究能力を修得している				有機化学・分析化学・食品科学に関する専門的な知識や研究能力を修得している		
	【2022年度以前加付対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している				有機化学・分析化学・食品科学に関する地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している		
	2 0 2 6 A3 編（24A），2 0 2 5 A3 編（23A），2 0 2 4 Aカリ，2 0 2 3 Aカリ						
	【2024年度以前加付対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。				有機化学・分析化学・食品科学に関する専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。		
	【2024年度以前加付対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。				有機化学・分析化学・食品科学に関する地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	ゼミ形式で各自の発表を行い、質疑応答・討議する。 各自のテーマに関連した欧文の参考文献を選択し、研究の目的、方法、結果、考察を理解し、要約するとともに、発表・質疑応答を通して有機化学・分析化学に関する理解を深める。資料のレビューを通じて様々な研究方法を理解するとともに、課題を捉え、解決する筋道の立て方等について習得する。						
(5)授業計画	第1回：学術情報データベースの利用法（SciFinder） 第2回：学術情報データベースの利用法（Web of Science） 第3回：電子ジャーナルの利用法 第4回：研究課題の設定 第5回：課題に関する学術情報検索（SciFinder） 第6回：課題に関する学術情報検索（Web of Science） 第7回：専攻研究に関する情報検索 第8回：自身の課題設定 第9回：研究方法の演習 第10回：研究結果に関する演習 第11回：研究論文の要約作成 第12回：研究発表演習（1） 第13回：研究発表演習（2） 第14回：研究発表演習（3） 第15回：研究計画の策定 履修後に授業アンケートを実施する。						
(6)自主学習の指針	自主学習では学術論文を参考に、研究の目的、方法、結果、考察の組み立て方を理解し、内容を読解する習慣をつけてください。また、各回で配付される発表レジュメを事前に自主学習しておいてください。						
(7)成績評価の基準	成績評価の基準は、(i) 論文の選択が適切であり、(ii) 英語論文の概要を説明できている、(iii) その論文でどのような知見が得られたかを把握できており、(iv) それらの結果に対して適切に考察できており、(v) その上で質疑応答に対しても明確に答えられ、説明できるレベルにあれば「卓越している」とし、(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」とします。						
(8)事前事後学習の内容	自身の研究内容に関連する論文等を検索し、事前に学習しておいてください。質疑応答で不明な点は必ず事後学習で補足してください。						
(9)テストやレポートの予定	なし						
(10)成績評価の方法	毎週行われる論文ゼミへの取組みを総合的に判断して評価します。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 S：90-100，A：80-89，B：70-79，C：60-69，D：59以下						
(11)質問、相談への対応および連絡先	随時受け付けます。						
(12)履修上の注意	担当回の発表は、自身の研究内容に関連した論文を選択し、よく理解した上で説明すること。また、他の受講者が発表する際には、積極的に意見を述べて討論すること。						
【教科書】	特に指定しない。						
【参考書】	必要に応じて紹介する。						